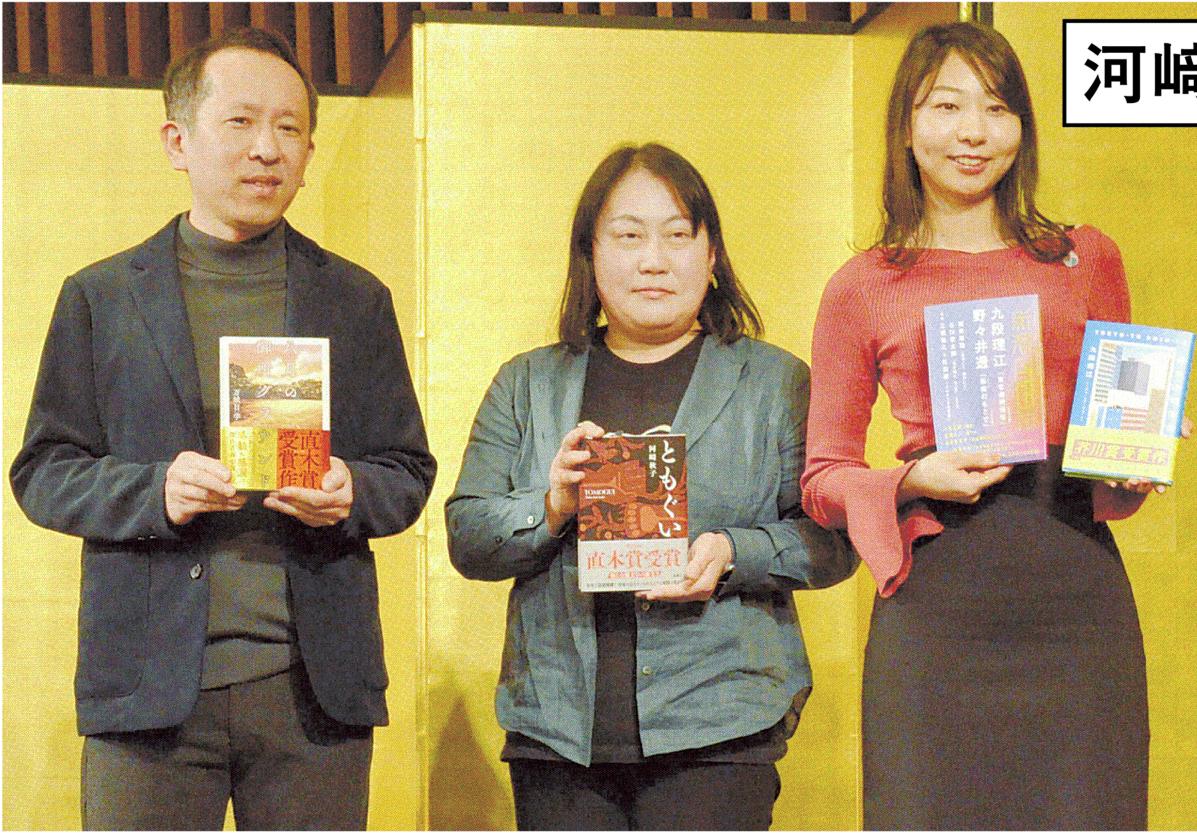


「憧れの賞、喜びの渦」



河崎秋子さん直木賞

【東京】第170回直木賞を受賞した十勝管内在住の河崎秋子さん(44)は17日夜、都内で会見した。「喜びの渦に巻き込まれた」と舌報が届いた心境を述べ、「憧れだった直木賞を受賞し、本当にうれしい。直木賞受賞作家として、現実をどのように見て何を残していくのかを改めて考え、研さんを重ねていきたい」と語った。

(1面参照)

「熊文学」圧倒的な文章力

受賞作「ともぐい」は、14年ほど前に書いた物語を肉付けして誕生した作品と説明。「文章表現は未熟だが、こういうものを書きたが、こういったものを書きたい」と語っていた。経験を経た中で読む人のことを考えたクリエーティブな欲求が詰まっていた。経験を経た中で読む人のことを考えた物語を作り直せ、な

い」というクリエーティブな欲求が詰まっていた。経験を経た中で読む人のことを考えた物語を作り直せ、な

い」と話した。
北海道で酪農や綿羊飼育を始めた朝ごはんに食べ、身も心も満たしてから飛行機で東京入りした」と明かし、会場を和ませた。(池谷智仁)

十勝が『散文王国』に

帯大谷高同級生ら祝福

河崎秋子さんの直木賞受

賞を受け、母校の帯広大谷高校の同級生や教員らは快挙をたたえ、喜びに沸いて書き上げられ満足している」と話した。

河崎さんは根室管内別海町で生まれ、地元の小中学

校を卒業後に帯広大谷高校

に進学した。文理コースで

3年間同じクラスだった帯

広大谷短大職員の加藤賢子

(さとこ)さん(44)は清

水町は「今まで頑張つて

きた姿を見てきたので『本

じ。とてもうれしく思う

」と語った。

河崎さんは「今まで頑張つて

きた姿を見てきたので『本

じ。とてもうれしく思う

」と語った。

河崎さんは「今まで頑張つて